

アツプ (mockup) として黒系マホガニー着色ウレタン塗装仕上げとし戸引手、抽斗引手に洗いクラシック型金具を取付け、山形屋公開展会場に出品した。

写真は当試作品である。

## DESIGN

### 1. 壁面利用ベッドのデザイン研究

研究員 鮫島 正登美

#### 目 的

人口の都市集中化にともない、1単位住宅の室内空間はますます狭く限定され、住定の絶体空間の狭さによる接客理念の変化(喫茶店、レストラン等にて接客)、共かせぎ夫婦の増加とともに家庭外での食事、子供の教育施設や娯楽、保護施設も良くなり、給良も行なわれつまり、労働と生活の分離、商業公共施設の発達等を考えるとき、今後家は正に寝るだけの場所と言う人もいる。室内の洋風化にともない、従来の収納家具では不合理な面もでてきた。そこで壁面の高度利用や空間を生かした、機能性のあるベッドの設計を試みた。

◎ ベッドの設計にあたり、その必要条件、種類、スタイル等について文献にて調べてみた。

(イ) 寝具としての必要条件

1. 保温性
2. 通気性
3. 弾力性
4. 衛生性
5. 経済性と耐久性

これらの点が共に勝れていなければならない。

(ロ) 寝具の種類と寸法

和室用～フトン、毛布(電気毛布)、枕、敷布、寝間着

寸法～敷フトン=長さ1,830巾1,000から1,300

掛フトン= " 1,900 " 1,300 " 1,680

寝室として1人当り最小限度長さ2,600×巾1,800は必要となる。つまり、1人当り畳3枚は必要といわれる。

洋間用～ベッド

ベッドを使用する場合の寝具に～ベットパット、ベット用のシーツ、ベット用毛布、ピロー(枕)、ベットスプレット(ベットカバー)

寸法～寝室は1人当り最小限度15立方mは必要で、つまり間口3m×奥行2.5m、高さ2.5mの寝室を必要とする。

(ハ) ベッドの種類

(1) サイズによる区別

- シングルサイズ ～  $\left. \begin{array}{l} 910 \text{mm} \\ 1,000 \text{mm} \end{array} \right\} \times \left\{ \begin{array}{l} 1,910 \text{mm} \\ 2,000 \text{mm} \end{array} \right.$
- セミダブルサイズ ～  $\left. \begin{array}{l} 1,200 \text{mm} \\ 1,400 \text{mm} \end{array} \right\} \times \left\{ \begin{array}{l} \text{mm} \\ \text{mm} \end{array} \right.$
- ダブルサイズ ～  $1,400 \text{mm} \times \left\{ \begin{array}{l} \text{mm} \\ \text{mm} \end{array} \right.$

- ツインサイズ ～  $\left. \begin{matrix} 850\text{mm} \\ 910\text{mm} \end{matrix} \right\} \times \left\{ \begin{matrix} 1910\text{mm} \\ 2000\text{mm} \end{matrix} \right.$
- キングサイズ ～ 1,820" × { " "
- フルサイズ ～ ダブルサイズの別名称

(2) 機能上による区別

用途に合わせて機能が異なるが、ベットの性能上ワンクッションとダブルクッションの2種類がある。

- 一般家庭用      ○ 営業用      ○ ホテル用      ○ 病院用

(3) スタイルによる区別

- 木製フレーム型
- ハリウッド型 { 頭の部分だけ板があり、ボトムに直接ヘッドボード及び脚を取付け、フットボードのない型
- 病院用ギャツジベット (ハンドル操作で床の角度が変化する。)
- ソファーベット { ソファーからベット、ベットからソファと簡単に変化する。
- 二段ベット { フレームに木製と鉄製の2種類があり、狭い場所を有効に使った物
- スタンドベット { 狭い部屋を有効に利用できるよう設計されている。
- ニツ折ベット { 折たたみ式で会社、学校、病院等で臨時用として用いる。
- ベビーベット { 赤ちゃん用でベビーサークルと言うような物まである。

(4) ベットの問題点

特 徴

(1) 保 温 性

- 部屋の下部を流れる冷氣から離れているため、暖かい空気につつまれる。

(2) 通 気 性

- スプリング入りのマットレスは内部に湿気がこもらない。

(3) 弾 力 性

- ベットの適度な弾力は局所的な衝撃や圧迫感がなく、体の各部分に応じて平均した柔かい感触が得られる。

(4) 清 潔 性

- 床にはホコリが蓄積していて、僅かな空気の動きでまじ上がる。ベットの高さは、そのホコリから遠ざかる。

(5) 経 済 性 (耐久性)

- フトンには綿の打直し、洗張り等を2年～3年に1回は必要とするが、ベットにはその必要がなく、例えば36,000円のベットでも20年使えばその費用は1日5円となる。

欠 点

(1) 異 動 性

畳上のフтонは収納性が容易なため、睡眠時以外は室内を寝室以外の他の目的に使用できるが、ベットは異動が困難な為に他の目的に使用できにくい。

(2) 空間の使用面積

ベットの面積は小でも人間の行動範囲を考えると、前記寝室内面積を異する。

上記の如く現在の住いの中でもっと積極的に改良していくことによって、合理的な寝台の利用開発はさほど困難なことではない。

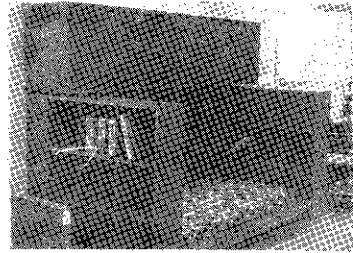
### ◎ 設計のねらい

高 大学生の個室を念頭におき次のことをねらいとした。

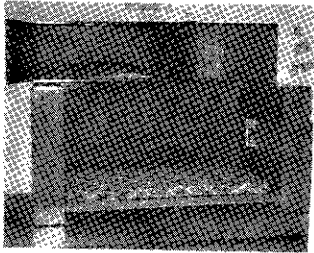
- (1) 室内の調和を損なわない。
- (2) 他の必要製品との併用
- (3) ベットの異動により室内を寝室外の目的に利用できる。

上記目的の元に壁面利用ベット（別図 A）の設計を試みた。

課題(1) A 壁面利用ベットは別図 A でもわかる通り、2 個の書棚（1 個は中棚がナイトテーブルの役もする。）2 個の夜具箱（吊棚式とする。）折りたたみベットからなり、ベットとして使用するときには、(1) 2 個の書棚（車付）を左右に開く（開戸と同様）、(2) スタンドベット同様になっているベット部分をおこす。併せて上部夜具棚内の夜具をおろし使用する。（写真の如く）書斎として使用のときは、今と反対の方法でベットポート、フットポートの部分を書棚として使用する。このようにすることにより、狭く限定された室内空間をより以上に高度に利用でき、それぞれの機能性も室内の調和も損なわない。又、ヘッドとフット部分（書棚）がベットとしては高いので、夜間個人のプライバシーをも多少なりと守ってくれる。



### ま と め



試作品は作品展に出品したが、好評をえた。  
今回の作品は機能性、構造上における量産性にはあまり問題はなかったが、書棚としての寸法材料及び加工の面でもっと簡易な構造が今後の問題と思う。

